



日本最西端 与那国島で 9条の会員と交流

TV ドラマ Dr. コトー診療所のロケ地、年に数回は台湾が見えるという与那国島に新婦人世田谷の仲間で行って来ました。

与那国出身で、狛江市議を 16 年、沖縄県議を 8 年勤めた宮良作先生に島の案内をしていただき、心やすらぐ豊かな自然、ゆったりとおおらかな人々に接し心洗われる時を過ごしました。しかし、昨年の尖閣諸島の中国との問題から、自衛隊の誘致が町議会で決まってしまうとのことにショックを受けました。先生の話から、軍事力は戦争の引き金にこそなれ、抑止力にはならないことは歴史が証明しています。

予定にはなかったのですが、夜には先生の家で 9 条の会のメンバーが次々と集まり（女性が 8 割）交流会となりました。急ぎょ東京でも自衛隊誘致決議の撤回を求める署名に取り組もうと話がきまり、暑く盛り上がった夜でした。沖縄の平和なくして日本の平和なしの思いを強くした旅でした。
(代田 1 丁目・秋元幸江)



石垣島・新栄公園

東京九条の会連絡会

学習会・実行委員会 (8 月 1 日) 参加報告

実行委員会では (1) 九条の会・第 4 回全国交流集会 (11 月 19 日、教育会館) の準備状況が報告され、分科会と分散会のあり方及びテーマなどについて意見交換がありました。「経験をしつくり聞く」会に向け運営委員会で更に検討することになります。(2) 東京九条の会の大会の概要 (日程: 2012 年 7 月 1 日、場所: 正則高校、規模: 1000 名) の報告があり、主課題について意見交換がありました。「震災復興・原発事故のあり方と憲法」、「原発撤退に向けて具体的な政策作り」などの案が挙げられました。議論は次回 (8/29) に引き継がれます。

学習会では中西繁さん (建築家、画家) の講演「チェルノブイリ原発を視察して」がありました。中西さんがチェルノブイリを取材で訪れたのは 2001 年です。原発の事故 (1986 年 4 月) から 15 年が経過した頃で、事故の収束は疎か 50 年にわたる廃炉計画を進めている真最中でした。中西さんは、2001 年のチェルノブイリの実態を語りましたが、それは同時に 2026 年の福島を想像させるものでもありました。(講演は <http://www.ustream.tv/recorded/16371620> に公開されています。)

講演は、原発技術は本質的に未完成であること、また原発の大事故を収束させる手段を我々は持ち得ないことなどを喚起するものでした。更に、チェルノブイリや福島を繰り返さないため、原発からの撤退と自然エネルギーを活かすエネルギー政策への転換を図るべきであると説きました。
(代田 2 丁目・坂本 功)



戦後 66 年 終戦記念日に思う」 うつのみや大空襲

宇都宮には、陸軍の師団と飛行場及び、中島飛行機の大きな工場がありました。

それが米軍に狙われ、1945年（昭和20年）2月以降、艦載機による爆撃が4回にわたってあった後、7月12日深夜には、B-29、131機により、市街地に約10万発の焼夷弾攻撃があり、町のおお半が焼失し、多くの死傷者が出ました。

その日は、朝から雨が降り続いていたので、まさか空襲はないと思っていましたが、深夜の11時20分頃、B-29による焼夷弾攻撃が始まり、警戒警報、すぐに空襲警報が発令されました。

当時、私は、女子師範付属国民学校の6年生でした。父は、医師で、屋敷続きに病院があり、入院患者が一人だけ残っていました。両親と兄は、自宅の方に残っていましたが、患者さんと看護婦さん夫婦、姉二人と私が、防空壕に避難しました。生垣のすぐ脇の街道を鶴田（田舎）方面へ逃げていく人たちで、ごった返し、子供の泣き叫ぶ声が入り混じって、騒然としていました。看護婦さんが「ここは危ない。逃げましょう」というので、通りを走る人たちと一緒に、みんな、火の手の見えない方向を目指して逃げました。ところが、途中、ひっきりなしに焼夷弾が落ち、地面に伏せたりしながら、周辺の森や田んぼに入り、身を隠したりして、火の手を避けて逃げ惑いました。着ていた服は雨でびしょ濡れになり、夏なのに、寒さと恐怖で震えていたことを覚えています。

空襲が収まったのは、翌13日の午前2時ころで、家に帰ると、無断で逃げ出し、かえって危険な目にあったと、両親に叱られました。

兄が、宇都宮駅近くにある母の実家へ、様子を見に行ったら、途中、死体のごろごろ横たわっていたそうです。母の実家は、蔵だけを残して全焼してしまいましたが、私の家は市街地のはずれにあったので無事でした。

その後も敗戦間際の8月13日まで、飛行場を狙った空襲が続いたのです。

3月10日の東京大空襲をはじめとして、8月15日の終戦までに、日本全土が、米軍機の空襲に曝され、あまたの非戦闘の人々が、家を失い、死傷し、最後には、広島・長崎への原爆攻撃。かえすがえすも、当時の国家指導者の判断の悪さが、残念でなりません。

（代田5丁目・野間口 敏子）

終戦記念日によせて

終戦の日の一九四五年八月十五日を私は二度目の疎開先、軽井沢町で迎えました。当時国民学校四年生でした。一度目の疎開先は伊豆の下田で二年生のときでしたが、三年生の夏に下田の家は海軍に接收されたため、軽井沢に移りました。終戦の放送はラジオで聞きました。終戦直後で特に印象的だったのは、欧米人に雇われていた韓国人が戦勝国人だといって威張りだしたことです。

軽井沢は冬は寒く食糧事情も悪かったし、東京の家は三月の大空襲で焼失しており、また東京の状況もよくなかったので、秋に、父母と兄弟五人は再び下田に戻りました。下田は米はほとんど採れないけれど、麦、芋類や野菜は作れ、魚は漁業の手伝いで入手できたので、飢えることはなかったです。ニワトリも飼育できて何とか全員生き延びられました。

戦争は多くの犠牲を強いて本当にむなしいものです。終戦によって得られた基本的人権、平和と戦争の放棄、原水爆禁止の思想を固く守ることが、日本人にとって人類にとって絶対に必要だと思います。

（代田3丁目・相馬 正之）



映画「ハーツ・アンド・マインズ」をめぐるつどいに参加して

8月7日、つどいに参加し、「ハーツ・アンド・マインズ」を見ました。暑期中16人の方が参加されました。1972年から74年にかけて、アメリカで、ベトナム戦争を題材に制作されたドキュメンタリー映画です。ベトナムの村での映像の間に、戦争に関わった、様々な立場の人々（製作者は、あえて、戦争賛成の立場の人も多く取り上げています）の言葉と表情を淡々と映し出しています。米兵の火炎放射機で、燃え上がる薫ぶき屋根の家々、ナパーム弾に焼かれた少女、米軍の爆撃で死んで横たわる幼い兄弟・・・一方で、「アジア人にとっては、命は我々よりは軽いのだ・・・」と語る将軍。捕虜となり、英雄として帰国し子供たちに愛国心を鼓舞する若い将校。ためらい悩みつつ自分は間違っていたと語る専門家・・・

おなじころ、日本で制作された映画に「ベトナム」（1969：山本薩夫監督）があります。ベトナムの青年たちの輝くひとみが美しい感動的な映画でした。それに比べると、この映画は地味ともいえますが、私は、この映画が、ベトナム戦争さなかのアメリカで制作されたことにうたれました。当時のアメリカで、反戦映画を撮ることは大変な勇気と覚悟が必要だったのだらうと思います。愛国心フィーバーに抗してこの映画を製作した人々の勇気と良心は40年後の今も私たちに多くをかたりかけていました。

(代田2丁目・伊東 光子)



年月	事項
1945年9月	ベトナム民主共和国(北ベトナム)成立宣言(政府主席ホー・チ・ミン)
1950年5月	アメリカ、フランスのインドシナ戦争への援助開始
1954年5月	ディエン・ビエン・フーでフランス軍降伏
1954年7月	ジュネーブでインドシナ休戦協定
1955年10月	南ベトナム、共和国宣言、ゴーチン・ジエム大統領
1960年12月	南ベトナム開放民族戦線の樹立
1961年8月	アメリカ、枯葉剤の散布開始
1962年12月	アメリカ、南ベトナム軍事援助司令部の設置
1963年11月	軍部クーデタでジエム政権の崩壊
1964年8月	トンキン湾事件、アメリカ議会の「トンキン湾決議」
1965年2月	解放民族戦線、プレーク基地攻撃
1965年3月	アメリカ、北爆の本格的な開始、海兵隊のダナン基地上陸
1968年1月	テト攻勢
1968年5月	パリ和平会談開始
1970年5月	米・南ベトナム軍、カンボジアに侵攻
1973年1月	パリ和平協定調印
1973年3月	米軍、南ベトナムから撤退完了
1975年4月	サイゴンの陥落、ベトナム戦争の終結



世田谷九条の会・交流集会に参加して

7月17日、宮坂区民センターでの交流集会に参加しました。

「憲法をめぐる情勢について」と題し、憲法会議事務局長・平井正さんの講演がありました。

3・11の東日本大震災・福島原発事故後の復興計画や自衛隊・米軍の活動、国会での改憲のための動き、「君が代」や比例定数削減についての問題など、多岐にわたり、新聞や外務省文書など、多くの資料を交えて話された。

東京新聞の「復興に憲法理念を」という記事には、先日募金を送った釜石・大槌九条の会世話人の前川慧一さんの話が載っていました。

講演の後、参加した九条の会から地域での活動の内容が紹介され（烏山、弦巻、新町、代沢、成城、砧・大蔵、桜丘、代田）交流しました。今、地域の九条の会は12ありますが、まだ世田谷全体の半分ほどです。もっと広がっていいですね。

(代田4丁目・萱野 幸子)

代田・九条の会 3周年記念のつどい

計画中

日時：11月3日(木・文化の日) 13:30～16:30頃

会場：東京都民教会(代田5丁目)

講演：小倉 志郎 氏 「原発のこと」(仮題)

歌：佐藤 真子 さん

あいさつ

等を予定しています。ご意見があれば、事務局までご連絡ください。

集会等の紹介

8月28日(日) 午後2:00～8:00

第17回世田谷公園 原爆写真展

～ 第27回せたがや文化平和月間

主催：三軒茶屋地域原爆写真展実行委員会

電話：03-5481-2928

会場：世田谷公園 「平和の灯」周辺

9月7日(水) 午後7:00 開演

NO NUKES GIG 2011 (ノー・ニュークス・ギグ) ～ 第27回せたがや文化平和月間

主催：実行委員会

入場料：一般3000円(前売2500円)

会場：北沢タウンホール

9月10日(土)～19日(月・祝日) 午後2:00など(日によって異なる)

「普天間」 青年劇場・公演

入場料：一般5000円

会場：紀伊國屋ホール(新宿)

詳細は、青年劇場チケットサービス 電話：03-3352-7200 まで

10月23日(日) 午後1:30開演

世田谷反核・平和コンサート

～ 第27回せたがや文化平和月間

主催：実行委員会

参加費：1500円

会場：三茶しゃれなあどホール(三軒茶屋)

11月19日(土) 第4回全国交流集会

主催：九条の会

会場：日本教育会館(千代田区)



お願い：ニュースの原稿を募集しています。

400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。

日本国憲法

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～